

10分でわかるPMlib 🤗

理化学研究所 計算科学研究センター

三上和徳

2020年8月19日

PMlibとは

- アプリケーションの計算性能をモニターするソフトウェアライブラリ
 - 注目する区間の性能統計情報を簡単に測定・レポートする。
 - C++言語、Fortran言語に対応。
 - Linux系OSをもつコンピュータの上で使える。
 - 富岳
 - 富士通FX100
 - Intel Xeonサーバ・PC
 - Apple Macbook(注 HWPG機能は利用不可)
 - オープンソース。
 - パッケージ公開リポジトリ
 - <http://avr-aics-riken.github.io/PMlib/>
 - 必要な前提ソフトウェア環境
 - Linux OS, C++, C, Fortranコンパイラ
 - (オプションに応じて)MPIライブラリ、PAPIライブラリ、OTFライブラリ

計算性能のモニターとは？

- 注目する区間を指定して性能統計情報を蓄積・記録すること
- 測定区間は少数の属性を持つ
 - ラベル: 任意の名称
 - 測定する計算量の種類: 「演算量」、「通信量」など * 1
 - * 1 浮動小数点演算量、データ移動量、その他HW固有の統計量がいくつか選べる
 - 排他性: 「排他的」か「非排他的」 他の区間とカブっていないかという意味
- 測定する計算量をどう選択・算出するか？
 - PMlibがHWPC値を自動測定する方法
 - ユーザが明示的に申告する方法

PMlibの利用方法

1. PMlibライブラリをインストールする
2. アプリケーション中の測定区間を決める
 - ソースプログラム中の注目箇所にPMlib APIを追加
3. アプリケーションをコンパイルしてPMlibとリンクする
4. アプリケーションを実行する
 - 実行時に性能統計情報がレポートされる
5. 性能統計レポートを確認評価する

PMlib基本API

• PMlib基本APIの一覧

関数名 (C++)	関数名 (Fortran)	機能	呼び出し位置と回数	引数
initialize()	f_pm_initialize()	PMlib全体の初期化	冒頭・一回	(1)測定区間数(省略可能)
start()	f_pm_start()	測定の開始	任意(startとstopでペア)・任意	(1)ラベル
stop()	f_pm_stop()	測定の停止	任意(startとstopでペア)・任意	(1)ラベル、(2)計算量、(3)任意の係数
print()	f_pm_print()	測定区間毎の基本統計 結果表示	測定終了時・一回	(1)出力ファイルポインタ、(2)ホスト名、(3)任意のコメント、(4)区間の表示順序指定

各APIの引数仕様についての詳しい説明はdoc/以下のファイルを参照してください

- doc/Readme.md Doxygenファイル生成方法の説明
- doc/html/index.html Doxygenが生成するWeb資料

PMlib機能API

機能API: 通常は呼び出す必要はないが、用途に応じて利用することができる。

関数名 (C++)	関数名 (Fortran)	機能	呼び出し位置と回数	引数
setProperty()	f_pm_setproperties()	測定区間の属性設定	start()よりも前・各区間一回	(1)ラベル、(2)測定対象タイプ、(3)排他指定
printDetail()	f_pm_printdetail()	MPIランク毎の詳細性能情報の表示	測定終了時・一回	(1)出力ファイルポインタ、(2)記号説明の表示、(3)区間の表示順序指定
printThreads()	f_pm_printthreads()	指定プロセスのスレッド毎詳細情報の表示	測定終了時・一回	(1)出力ファイルポインタ、(2)指定プロセスのMPIランク番号、(3)区間の表示順序指定
printGroup ()	f_pm_printgroup ()	指定プロセスグループに属するMPIランク毎の詳細情報表示	測定終了後・グループ数回	(1)出力ファイルポインタ、(2)group handle、(3)communicator、(4)rank番号配列、(5)グループ番号、(6)記号説明の表示、(7)区間の表示順序指定
printComm ()	f_pm_printcomm ()	MPI_Comm_split()で作成したグループ毎に詳細情報表示	測定終了後・一回	(1)出力ファイルポインタ、(2)communicator handle、(3)カラー変数、(4)key変数、(5)記号説明の表示、(6)区間の表示順序指定
printProgress()	f_pm_printprogress()	測定中の経過情報をスナップショット表示	任意・制約なし	(1)出力ファイルポインタ、(2)任意のコメント、(3)区間の表示順序指定
postTrace ()	f_pm_posttrace ()	ポスト処理用traceファイルの出力	測定終了後・一回	引数なし。環境変数あり。
reset()	f_pm_reset()	測定区間の経過情報をリセットする	任意・制約なし	(1)ラベル
resetAll()	f_pm_resetall()	全測定区間の経過情報をリセットする	任意・制約なし	引数なし。

PMlibを利用するプログラムの構成例 (Fortran)

- 元のソース

```
program main  
  
call mykernel()  
  
end
```

注目箇所

- PMlib組み込み後のソース

```
program main  
call f_pm_initialize (nWatch)  
call f_pm_start ("label")  
call mykernel (msize,n,a,b,c)  
call f_pm_stop ("label", fops, ncall)  
call f_pm_print ("", isort)  
end
```

PMlib初期化

測定区間

レポート出力

PMlibを利用するプログラムの構成例(C++)

- 元のソース

```
int main(int argc, char *argv[])
{
    mykernel(); //注目箇所
    return 0;
}
```

- PMlib組み込み後のソース

```
#include <PerfMonitor.h>
using namespace pm_lib;
PerfMonitor PM;
int main(int argc, char *argv[])
{
    PM.initialize();
    PM.start("label");
    mykernel();
    PM.stop ("label",fops,ncall);
    PM.print(stdout, "", "");
    return 0;
}
```

PMlibヘッダー

PMlib初期化

測定区間

レポート出力

PMlibの出力情報

- 1、基本レポート
 - 各測定区間のプロセスあたり平均性能統計値
 - 時間:各区間の平均時間、呼び出し回数、累積経過時間
 - 計算量:呼び出し1回あたりの量、合計量、速度
 - 区間を登録順または経過時間順にソート出力
 - ジョブ全体での総合性能
- 2、(オプション)詳細レポート
 - 各MPIプロセス毎のプロファイルを出力
 - 各MPIプロセス毎のHWPCイベント統計量 イベント種類を環境変数で指定
 - 指定プロセス番号のOpenMPスレッド毎のHWPCイベント統計量
- 3、(オプション)ポスト処理用性能トレースファイル

基本レポート例 (HWPC自動測定モード)

PMLib Basic Report -----

Timing Statistics Report from PMLib version 7.0.1

Linked PMLib supports: MPI, OpenMP, HWPC, OTF

Host name : uv03

Date : 2020/07/27 : 22:12:15

Mrs. Kobe

Parallel Mode: Hybrid (2 processes x 4 threads)

HWPC_CHOOSER=FLOPS environment variable is provided.

PMLib enabled elapse time (from initialize to print) = 4.465e+00 [sec]

Exclusive sections and inclusive sections are reported below.

Inclusive sections, marked with (*), are not added in the statistics total.

Section	call	accumulated time[sec]				hardware counted floating point ops.		
Label		avr	avr [%]	sdv	avr/call	f. p. ops	sdv	performance
Loop-section(*) :	1	4.161e+00	93.19	1.26e-01	4.161e+00	3.657e+10	2.54e+07	8.79 Gflops(*)
Kernel-Slow :	3	3.032e+00	67.90	9.91e-02	1.011e+00	1.223e+10	2.75e+05	4.03 Gflops
Kernel-Fast :	3	7.087e-01	15.87	2.72e-02	2.362e-01	1.522e+10	2.96e+07	21.47 Gflops
Initial-section :	1	6.069e-03	0.14	9.82e-05	6.069e-03	5.833e+07	9.39e+03	9.61 Gflops
Sections per process		3.746e+00	-Exclusive HWPC sections-			2.750e+10		7.34 Gflops
Sections total job		3.746e+00	-Exclusive HWPC sections-			5.501e+10		14.68 Gflops

基本レポート例（ユーザ申告モード）

PMLib Basic Report -----

Timing Statistics Report from PMLib version 7.0.1

Linked PMLib supports: MPI, OpenMP, HWPC, OTF

Host name : uv03

Date : 2020/07/27 : 22:12:10

Mrs. Kobe

Parallel Mode: Hybrid (2 processes x 4 threads)

HWPC_CHOOSER is not set. User API values are reported.

PMLib enabled elapse time (from initialize to print) = 4.656e+00 [sec]

Exclusive sections and inclusive sections are reported below.

Inclusive sections, marked with (*), are not added in the statistics total.

Section Label	call	accumulated time[sec]				user defined numerical performance			
		avr	avr [%]	sdv	avr/call	operations	sdv	performance	
Loop-section(*) :	1	4.339e+00	93.18	3.78e-01	4.339e+00	1.920e+11	0.00e+00	44.25 GB/sec(*)	
Kernel-Slow :	3	3.159e+00	67.86	2.83e-01	1.053e+00	1.200e+10	0.00e+00	3.80 Gflops	
Kernel-Fast :	3	7.395e-01	15.88	7.09e-02	2.465e-01	1.200e+10	0.00e+00	16.23 Gflops	
Initial-section :	1	7.348e-03	0.16	3.09e-05	7.348e-03	2.000e+06	0.00e+00	272.17 Mflops	
Sections per process		3.906e+00	-Exclusive CALC sections-			2.400e+10		6.14 Gflops	
Sections total job		3.906e+00	-Exclusive CALC sections-			4.800e+10		12.29 Gflops	

出力のオプション

- 詳細プロファイル(テキストレポート出力)
 - プロセス毎・スレッド毎の計算量・システムの実効性能諸値
 - アプリケーションと一体で利用しやすい
- OTF(Open Trace Format)ファイル出力
 - 専用のポスト処理プログラムTRAiLを用いてWebブラウザで表示
 - 計算性能を時刻歴に可視化する機能



ランク毎処理時刻グラフ

横軸: 時刻

縦軸: ランク番号

実行されているラベルを
前面に表示

性能グラフ

横軸: 時刻

縦軸: 性能測定値

ランク毎に1つの曲線を表示

10分でできるPMlibのインストールと利用😘

理化学研究所 計算科学研究センター

三上和徳

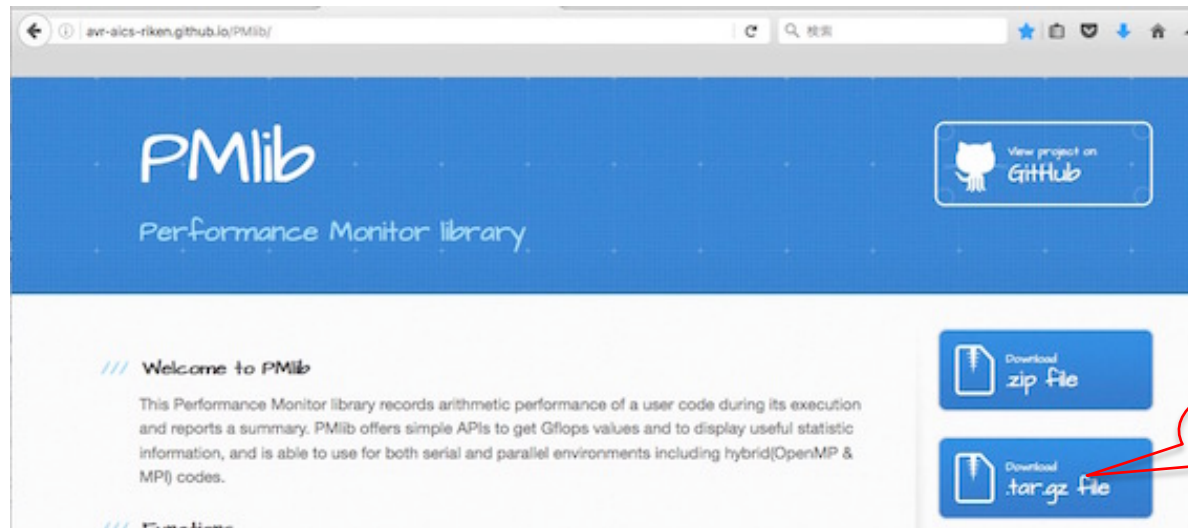
2020年8月19日

PMlibのインストールと利用実行

- PMlibのインストール
 - PMlibパッケージの入手
 - PMlibのインストール
 - PMlibのインストール例はコンピュータシステム毎に内容が異なります。適切なものを選んでお読みください。
 - Intel環境編・富岳編・FX100編・Mac編
- 例題プログラムでのPMlibの利用
 - 例題プログラムの準備（C++とFortranの例を用いる）
 - 例題プログラムへのPMlibの追加（ソースプログラムの編集）
 - 例題プログラムをコンパイルしてPMlibをリンクする
 - 例題プログラムを実行して、PMlibのレポートを確認する
 - コンパイル・実行例はコンピュータシステム毎に内容が異なります。適切なものを選んでお読みください。
 - Intel環境編・富岳編・FX100編・Mac編

PMlibパッケージの入手(共通)

- パッケージ公開リポジトリ
 - <http://avr-aics-riken.github.io/PMlib/>



- ダウンロードしたファイル名は `avr-aics-riken-PMlib-*.tar.gz`
 - (*の部分はバージョンにより変わる)
- ダウンロードしたファイルをインストール先のコンピュータに転送する。
 - 以降の例では `${HOME}/tmp/` 下に転送したと仮定する

PMlibパッケージの展開（共通）

- インストール先のコンピュータ上で、転送したパッケージを展開する
- 展開したディレクトリにシンボリックリンクと、パスの環境変数を設定する。
- 以下の例ではログイン後ホームに pmlib ディレクトリを作って、その下に転送したパッケージのファイルを展開する。

```
$ mkdir ~/pmlib
$ cd ~/pmlib
$ tar -zxf ~/tmp/avr-aics-riken-PMlib-*.tar.gz
$ ls -go
drwxr-xr-x 9    252 2020-07-15 17:42 avr-aics-riken-PMlib-e93d078
$ mv avr-aics-riken-PMlib-* package
$ export PACKAGE_DIR=~/.pmlib/package
```

- 各システムに対応したインストール用スクリプトが以下に含まれている。

```
$ ls -F package/doc/scripts/
Fugaku/  GNU/    Intel/  Kcomputer/ Mac/    fx100/  fx700/
```


PMlibのインストール

- PMlibのインストール
 - PMlibのインストール例はコンピュータシステム毎に内容が異なります。適切なものを選んでお読みください。
 - PMlibのインストール例 Intel環境編
 - PMlibのインストール例 富岳編
 - PMlibのインストール例 FX100編
 - PMlibのインストール例 Mac・OSX編

□ PMlibのインストール Intel環境編

- Intelコンパイラ+Intel MPIのソフトウェア環境を想定している。
- Intel環境用のインストールスクリプトを確認する

```
$ vi ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Intel/x.cmake-intel.sh
```

- Intelコンパイラ・ライブラリを利用するための設定はシステムによって異なり、moduleの指定や、ディレクトリの直接指定などを適切に行う必要がある。上記スクリプト冒頭の2～14行にいくつかのシステムにおける設定例をコメントで記している。
- PMlibをインストールするためのディレクトリを指定する

```
21行目 PACKAGE_DIR=~/.pmlib/package  
22行目 PMLIB_DIR=~/.pmlib/usr_local_pmlib/pmlib-intel  
25行目 PAPI_DIR=/usr/local/papi/papi-5.6.0-intel
```

- PACKAGE_DIR : PMlibパッケージを展開したディレクトリ(前ページで作成した)
- PMLIB_DIR : PMlibのインストール先ディレクトリ(新規に作成・更新することになる)
- PAPI_DIR : PAPIライブラリ(オプション: 既存ディレクトリ、または”no”)

PAPIはバージョン5.6.0以降を用いると良い。システムが古いPAPIしか装備していない場合は、バージョン5.6.0以降のパッケージを個別にインストールすると良い。

- インストールスクリプトを実行する。

```
$ ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Intel/x.cmake-intel.sh 2>&1 | tee stdout.make
```

□ PMlibのインストール 富岳編

- スーパーコンピュータ富岳用のインストールスクリプトを確認する

```
$ vi ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Fugaku/x.cmake-fugaku.sh
```

- スーパーコンピュータ富岳用のコンパイラ・ライブラリパスはシステムが自動認識する。
- PMlibをインストールするためのディレクトリを指定する

```
7行目 PACKAGE_DIR=${HOME}/pmlib/package  
8行目 PMLIB_DIR=${HOME}/pmlib/usr_local_pmlib/K  
N行目 PAPI_DIR="yes"
```

- PACKAGE_DIR : PMlibパッケージを展開したディレクトリ(前ページで作成した)
- PMLIB_DIR : PMlibのインストール先ディレクトリ(新規に作成・更新することになる)
- PAPI_DIR : PAPIライブラリ(オプション: 既存、“yes” で自動認識、または“no”)

- ログインノード上でインストールスクリプトを実行する。

```
$ ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/K/x.cmake-K-all.sh 2>&1 | tee stdout.make
```

□ PMLibのインストール FX700/FX1000編

- FX700/FX1000共通のインストールスクリプトを確認する

```
$ vi ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/fx700/x.cmake-fx700.sh
```

- FX700/FX1000用のコンパイラ・ライブラリパスはシステムにより異なる場合があるが、通常は自動認識され、ユーザーが指定する必要はない(5行目 PATH変数、6行目 LD_LIBRARY_PATH変数)。
- PMLibをインストールするためのディレクトリを指定する

```
11行目 PACKAGE_DIR=${HOME}/pmlib/package  
12行目 PMLIB_DIR=${HOME}/pmlib/usr_local_pmlib/fx700  
16行目 PAPI_DIR=/opt/FJSVxos/devkit/aarch64/rfs/usr
```

- PACKAGE_DIR : PMLibパッケージを展開したディレクトリ(前ページで作成した)
 - PMLIB_DIR : PMLibのインストール先ディレクトリ(新規に作成・更新することになる)
 - PAPI_DIR : PAPIライブラリ(オプション: 既存。ディレクトリはシステムにより異なる場合がある)
- ログインノード上でインストールスクリプトを実行する。

```
$ ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/ fx700/x.cmake-fx700.sh 2>&1 | tee stdout.make
```

□ PMlibのインストール FX100・京コンピュータ編

- FX100・京コンピュータ共通のインストールスクリプトを確認する。

```
$ vi ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Kcomputer/x.cmake-K-all.sh
```

- FX100・京コンピュータのコンパイラ・ライブラリパスはシステムが自動認識する。
- PMlibをインストールするためのディレクトリを指定する

```
N行目 PACKAGE_DIR=${HOME}/pmlib/package  
N行目 PMLIB_DIR=${HOME}/pmlib/usr_local_pmlib/K  
N行目 PAPI_DIR="yes"
```

- PACKAGE_DIR : PMlibパッケージを展開したディレクトリ(前ページで作成した)
- PMLIB_DIR : PMlibのインストール先ディレクトリ(新規に作成・更新することになる)
- PAPI_DIR : PAPIライブラリ(オプション: 既存、“yes” で自動認識、または“no”)

- ログインノード上でインストールスクリプトを実行する。

```
$ ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/ Kcomputer /x.cmake-K-all.sh 2>&1 | tee  
stdout.make
```

□ PMlibのインストール Apple Mac環境編

- Apple Mac環境ではCコンパイラ(Clang)は標準で備わっているがFortranコンパイラ、MPIライブラリは通常利用者がインストールする必要がある。ここではGNU Fortranコンパイラ(gfortran)、MPIはOpenMPIがインストールされていると仮定する。
- Apple Mac環境用のインストールスクリプト例は以下に提供されている

```
$ vi ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Mac/x.cmake-Mac-clang.sh
```

- PMlibをインストールするためのディレクトリを指定する

```
8行目  PACKAGE_DIR=~/.pmlib/package  
9行目  PMLIB_DIR=~/.pmlib/usr_local_pmlib/intel
```

- PACKAGE_DIR : PMlibパッケージを展開したディレクトリ(前ページで作成した)
 - PMLIB_DIR : PMlibのインストール先ディレクトリ(新規に作成・更新することになる)
 - Apple Mac環境ではPAPIライブラリが無く、HWPC機能はサポートされない。
- インストールスクリプトを実行する。

```
$ ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Mac/x.cmake-Mac-clang.sh 2>&1 | tee stdout
```

PMlibインストール終了時のファイル（共通）

- 以下のファイルがインストールされた事を確認する

```
$ ls -go ${PMLIB_DIR}
drwxr-xr-x 2 140  7月  4 16:20 doc
drwxr-xr-x 2 117  7月  4 16:20 include
drwxr-xr-x 2  57  7月  4 16:20 lib
drwxr-xr-x 2  80  7月  4 16:20 share
```

```
$ ls -go ${PMLIB_DIR}/lib
-rw-r--r-- 1 170276  7月  4 16:20 libPM.a
-rw-r--r-- 1 175460  7月  4 16:19 libPMmpi.a
-rw-r--r-- 1  5470  7月  4 16:20 libpapi_ext.a
```

PMlibライブラリ非MPI版
PMlibライブラリMPI対応版
PAPI拡張ライブラリ

Libpapi_ext.aファイルはPAPIオプションを
指定した場合のみ作成される。

- 以上でPMlibインストール終了！
- では続いてPMlibを使ってみよう。

例題プログラムの準備

- 適当なディレクトリ(\$MY_DIRとする)の下にプログラムを作成する
- パッケージのdoc/src_tutorialディレクトリ下のプログラム例をコピーすると良い
- 自分でソースを書いてももちろん良い

```
$ MY_DIR=${HOME}/pmlib/my_dir  
$ mkdir -p ${MY_DIR}  
$ cd ${MY_DIR}  
$ cp -p ${PACKAGE_DIR}/doc/src_tutorial/mxm.* ./
```

- 次ページ以降ではC++(mxm.cpp)かFortran(mxm.f90)のどちらかを選んで進めると良い
- mxm.cpp, mxm.f90の内容: N次の正方行列の積を計算するプログラム
 - 主プログラム: 関数1と関数2を呼び出して行列積の計算を行う。
 - 関数1: 正方行列[A]、[B]の各要素を初期化する
 - 関数2: 行列積[C]=[A][B]を計算する
 - シリアルプログラム(MPI不要、OpenMP不要)

例題C++プログラム (mxm.cpp)

```
#include <stdio.h>
#include <string.h>
#include "matrix.h"
void init2d();
void mxm2d();
```

```
int main()
{
    init2d();
    mxm2d();
    return 0;
}
```

主プログラム部分

```
void init2d()
{
    int i, j, nsize;
    matrix.nsize = MATSIZE;
    nsize = matrix.nsize;
    for (i=0; i<nsize; i++){
        for (j=0; j<nsize; j++){
            matrix.a2d[i][j] = (double)(i+j)/(double)nsize;
            matrix.b2d[i][j] = 1.0-matrix.a2d[i][j];
            matrix.c2d[i][j] = 0.0;
        }
    }
}
```

```
void mxm2d()
{
    int i, j, k, nsize;
    double c1;
    nsize = matrix.nsize;
    for (i=0; i<nsize; i++){
        for (j=0; j<nsize; j++){
            c1 = 0.0;
            for (k=0; k<nsize; k++){
                c1 = c1 +
                    matrix.a2d[k][i] * matrix.b2d[j][k];
            }
            matrix.c2d[j][i] = c1;
        }
    }
}
```

ヘッダーファイル matrix.h の内容

```
#define MATSIZE 1000
struct matrix {
    double a2d[MATSIZE][MATSIZE];
    double b2d[MATSIZE][MATSIZE];
    double c2d[MATSIZE][MATSIZE];
    int nsize;
} matrix;
```

例題C++プログラムへのPMLibの追加

- 元の主プログラム部分

```
int main()
{

    init2d();

    mxm2d();

    return 0;
}
```

- PMLibを追加した主プログラム部分

```
#include <PerfMonitor.h>
using namespace pm_lib;
PerfMonitor PM;
int main()
{
    PM.initialize();
    PMPM.start("A:init2d");
    init2d();
    PM.stop ("A:init2d");
    PM.start("B:mxm2d");
    mxm2d();
    PM.stop ("B:mxm2d");
    PM.print(stdout, "", "");
    return 0;
}
```

} ヘッダー追加

PMlib初期化

} 測定区間1

} 測定区間2

レポート出力

例題Fortranプログラム (mxm.f90)

```
program main
  parameter(m=1000)
  real(kind=8), allocatable :: a(:, :), b(:, :), c(:, :)
  allocate (a(m,m), b(m,m), c(m,m), stat=istat)
  n=m

  call subinit2d (m,n,a,b,c)

  call submxm2d (m,n,dflop,a,b,c)

  write(*,*) 'something was computed', c(m,m)
  stop
end
```

主プログラム部分

```
subroutine subinit2d (m,n,a,b,c)
  real(kind=8) :: a(m,m), b(m,m), c(m,m)
  do j=1, n
    do i=1, n
      a(i,j)=sin(real(i)/real(n))
      b(i,j)=cos(real(i)/real(n))
    end do
  end do
  return
end
```

```
subroutine submxm2d (m,n,dflop,a,b,c)
  real(kind=8) :: a(m,m), b(m,m), c(m,m)
  real(kind=8) :: x

  dflop=2.0*dbple(n)**3
  do j=1, n
    do i=1, n
      x=0
      do k=1, n
        x=x+a(i,k)*b(k,j)
      end do
      c(i,j) = x
    end do
  end do
  return
end
```

例題FortranプログラムへのPMLibの追加

- 元の主プログラム部分

```
call subinit2d (m,n,a,b,c)
```

```
call submxm2d (m,n,dflop, a,b,c)
```

- PMLibを追加した主プログラム部分

```
call f_pm_initialize (0)
```

```
call f_pm_start ("A:subinit2d")
```

```
call subinit2d (m,n,a,b,c)
```

```
call f_pm_stop ("A:subinit2d", 0.0, 0)
```

```
call f_pm_start ("B:submxm2d")
```

```
call submxm2d (m,n,dflop,a,b,c)
```

```
call f_pm_stop ("B:submxm2d", 0.0, 0)
```

```
call f_pm_print ("", "", "", 0)
```

PMLib初期化

測定区間1

測定区間2

レポート出力

例題プログラムのコンパイル・リンク・実行

- 例題プログラムをコンパイルしてPMlibをリンクする
- 例題プログラムを実行して、PMlibのレポートを確認する
 - コンパイル・実行例はコンピュータシステム毎に内容が異なります。適切なものを選んでお読みください。
 - Intel環境編
 - 富岳編
 - FX100編
 - Mac・OSX編

コンパイル・リンク・実行 Intel環境編

- 例題プログラムをコンパイル、PMlibをリンクし、実行するジョブスクリプト例
 - `${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Intel/x.mxm-fort.sh` # Fortran例題
 - `${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Intel/x.mxm-cpp.sh` # C++例題
- スクリプトの内容を確認する
 - ジョブスクリプト例は対話的にコンパイル・実行する場合の例である。もしバッチ実行する場合はジョブ指示行を適宜追加して投入する。
 - PMlibインストール時と同様な設定がされていることを確認する
 - PMLIB_DIR, PAPI_DIR、およびINTELコンパイラ・ライブラリ利用の設定
 - PMlibはMPI版(-IPMmpi)か非MPI版 (-IPM) かを選択してリンクする。
 - この例題プログラムは1プロセスの非MPI版なので -IPMを選択する
- ジョブスクリプトを対話的に実行する。バッチ実行する場合は上記の指示行追加後投入。
 - 最初は環境変数HWPC_CHOOSERを指定しないユーザー申告モードで実行

```
$ ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Intel/x.mxm-cpp.sh # C++例題の対話的执行
```

- 次にスクリプトを編集してHWPC_CHOOSERを指定して実行し(自動測定モード)、PMlibレポートの内容を確認する

```
最下行-1      export HWPC_CHOOSER=FLOPS
```

```
$ ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Intel/x.mxm-cpp.sh # C++例題の対話的执行
```

コンパイル・リンク・実行 富岳編

- 例題プログラムをコンパイル、PMlibをリンクし、実行するジョブスクリプト例
 - `${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Fugaku/x.mxm-fort.sh` # Fortran例題
 - `${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Fugaku/x.mxm-cpp.sh` # C++例題
 - スクリプトの内容を確認する
 - スクリプト例はバッチジョブでコンパイル・実行する例である。
 - PMlibインストール時と同様にPMLIB_DIR, PAPI_DIRが設定されていることを確認する
 - PMlibはMPI版(-IPMmpi)か非MPI版 (-IPM) かを選択してリンクする。
 - この例題プログラムは1プロセスの非MPI版なので -IPMを選択する
 - スクリプトをジョブ投入する。
 - 最初は環境変数HWPC_CHOOSERを指定しないユーザー申告モードで実行
- ```
$ pjsub ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Fugaku/x.mxm-cpp.sh # C++例題の場合
```
- 次にスクリプトを編集してHWPC\_CHOOSERを指定して実行し(自動測定モード)、PMlibレポートの内容を確認する

```
最下行-1 export HWPC_CHOOSER=FLOPS
```

```
$ pjsub ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Fugaku/x.mxm-cpp.sh # C++例題の場合
```

# コンパイル・リンク・実行 FX100編

- 例題プログラムをコンパイル、PMlibをリンクし、実行するジョブスクリプト例
  - `${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/fx100/x.mxm-fort.sh` # Fortran例題
  - `${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/fx100/x.mxm-cpp.sh` # C++例題
- スクリプトの内容を確認する
  - スクリプト例はバッチジョブでコンパイル・実行する例である。FX100ではシステム毎にジョブ指示行など必要な環境設定方法が異なり、適宜編集する必要がある。
  - PMlibインストール時と同様にPMLIB\_DIR, PAPI\_DIRが設定されていることを確認する
  - PMlibはMPI版(-IPMmpi)か非MPI版 (-IPM) かを選択してリンクする。
    - この例題プログラムは1プロセスの非MPI版なので -IPMを選択する
- スクリプトをジョブ投入する。
  - 最初は環境変数HWPC\_CHOOSERを指定しないユーザー申告モードで実行

```
$ pjsub ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/fx100/x.mxm-cpp.sh # C++例題の場合
```

- 次にスクリプトを編集してHWPC\_CHOOSERを指定して実行し(自動測定モード)、PMlibレポートの内容を確認する

```
最下行-1 export HWPC_CHOOSER=FLOPS
```

```
$ pjsub ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/fx100/x.mxm-cpp.sh # C++例題の場合
```



# コンパイル・リンク・実行 Mac編

- 例題プログラムをコンパイル、PMlibをリンクし、実行するジョブスクリプト例
  - `${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Mac/x.mxm-fort.sh` # Fortran例題
  - `${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Mac/x.mxm-cpp.sh` # C++例題
- スクリプトの内容を確認する
  - ジョブスクリプト例は対話的にコンパイル・実行する場合の例である。
  - PMlibインストール時と同様な設定がされていることを確認する
    - PMLIB\_DIRおよびFortranコンパイラ・ライブラリ利用の設定
  - PMlibはMPI版(-IPMmpi)か非MPI版 (-IPM) かを選択してリンクする。
    - この例題プログラムは1プロセスの非MPI版なので -IPMを選択する
- ジョブスクリプトを対話的に実行する。Macではユーザー申告モードでの実行モードだけがサポートされ、環境変数HWPC\_CHOOSERは無効となる。

```
$ ${PACKAGE_DIR}/doc/scripts/Mac/x.mxm-cpp.sh # C++例題の場合
```

# 例題プログラムの実行 スレッドレベルの詳細レポート出力

- ソースプログラムの編集
  - 興味ある測定区間にOpenMP指示行を挿入
  - 詳細レポート出力用の APIを挿入
- ジョブスクリプト `x.mxm-cpp.sh/x.mxm-fort.sh`で環境変数を設定してジョブを再実行
  - `OMP_NUM_THREADS=1/2/4/8`など: OpenMPスレッド数
  - `HWPC_CHOOSER=FLOPS/BANDWIDTH/VECTOR`など: HWPC測定のタイプ
  - 各ケースのPMlibレポート出力内容を確認する

# C++ソースプログラムの編集

- ソースプログラムの測定区間にOpenMP指示行を追加

```
void init2d()
{
 int i, j, nsize;
 matrix.nsize = MATSIZE;
 nsize = matrix.nsize;
 #pragma omp parallel for private(i,j)
 for (i=0; i<nsize; i++){
 for (j=0; j<nsize; j++){
 matrix.a2d[i][j] = (double)(i+j) / (double) nsize;
 matrix.b2d[i][j] = 1.0-matrix.a2d[i][j];
 matrix.c2d[i][j] = 0.0;
 }
 }
}
```

```
void mxm2d()
{
 int i, j, k, nsize;
 double c1;
 nsize = matrix.nsize;
 #pragma omp parallel for private(i,j,k,c1)
 for (i=0; i<nsize; i++){
 for (j=0; j<nsize; j++){
 c1 = 0.0;
 for (k=0; k<nsize; k++){
 c1 = c1 +
 matrix.a2d[k][i] * matrix.b2d[j][k];
 }
 ...以下略...
```

- 主プログラムへPMLib詳細レポート出力APIを追加

```
int main() {

 PM.printDetail(stdout);
 PM.printThreads(stdout, 0, 0);
 return 0;
}
```

詳細レポート出力

# Fortranソースプログラムの編集

- ソースプログラムの測定区間にOpenMP指示行を追加

```
subroutine subinit2d (m,n,a,b,c)
 real(kind=8) :: a(m,m), b(m,m), c(m,m)
 !$omp parallel do
 do j=1, n
 do i=1, n
 a(i,j)=sin(real(i)/real(n))
 b(i,j)=cos(real(i)/real(n))
 end do
 end do
 return
end
```

```
subroutine submxm2d (m,n,dflop,a,b,c)
 real(kind=8) :: a(m,m), b(m,m), c(m,m)
 real(kind=8) :: x
 dflop=2.0*dble(n)**3
 !$omp parallel do private(i,j,k,x)
 do j=1, n
 do i=1, n
 x=0
 do k=1, n
 x=x+a(i,k)*b(k,j)
 end do
 end do
 end do
 ...以下略...
```

- 主プログラムへPMLib詳細レポート出力APIを追加

```
program main

 call f_pm_printdetail ("",1,0)
 call f_pm_printthreads ("",0,0)
end program
```

詳細レポート出力

以上です。

PMlibの基本的な機能と利用方法についてご紹介しました。  
さらに詳細な機能やその利用方法について知りたい方は、PMlibパッケージのDoxygen  
資料、英語版Readmeファイルなどをご覧ください。

[doc/Readme.md](#)

[doc/html/index.html](#)

[Readme.md](#)

[doc/tutorial/PMlib-Getting-Started.pdf](#)

Doxygenファイル生成方法の説明

Doxygenが生成するWeb資料

インストール・利用方法(英語資料)

簡易版利用ガイド(本資料)